

2021年6月14日 聖書朝礼

「心の貧しい人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである。」

～ マタイ5. 3 ～

全校の皆さんお早うございます。

皆さんには大切にしている本や何度も読み返したことがあるという本があると思います。そのような本との出会いはどのようなものでしょうか。その本から深い感銘を受けたり、慰められたり、自分の夢が広がったりしますね。

何回か繰り返して読んだ本は読むたびに、新たな気づきがあるという本はそばに置いておきたくなりますね。私には聖書がそういうような本です。聖書を通して神様の愛を知り、人を愛すること、また人として自然や生きているすべての命への責任があるということ、聖書を読むたびに新たな形で気づかされます。そして、誰か悩んでいた、辛い時を過ごしている人がいれば聖書のことばを送ったりしてきました。私は、聖書を子どもの時から読んできましたが、子どもの時は疑問だらけの本でした。例えば「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」という言葉は、一粒の麦がどうやって死ぬことができるのだろうかと思ったり、「あなたの敵を愛しなさい」とか「施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない」「あなたの敵を愛しなさい」など、難しく感じる言葉ばかりでした。もちろん聖書は、頭ではなく心で読まない理解できない言葉や人生のあらゆる経験がないと理解できない言葉があり、読むたびに新たな悟り、新たな感動を齎すことを今は分かります。

今日の聖句「心の貧しい人々は、幸いである」もそうですね。「心の貧しい人」というふうに、日本語で言いますと、「ガツガツした貪欲な人」とか、あるいは「大らかさを欠いている人」とか、そういうイメージになるかと思いますが、そう考えると、「何で幸いなんだ」ということになりますね。結論から言いますと、心の貧しいというのは神様の前で謙遜な心を意味します。そして、神さまを信じて貧しさを選んで生きている人を言います。皆さんがよく知っている人物としては、聖フランシスコやマザーテレサがいますね。その他にもたくさんの方がいますが、心の貧しい人は少しの事でも感謝することができます。心の貧しい人は、周りの人や自然など、私たちと共に生きているすべての命を大切に生きていくことを選びます。そういう人をイエスさまは「幸いだ」と言われうのではないのでしょうか。

6月は「みこころ」の月です。「御心」とは「イエス様の心」を言います。6月は新約聖書を読んで少しでもイエス様の心を知り、少しでも「あなたは幸いだ」と言われる生き方を選んで生活してみませんか。一緒に頑張りましょう。

